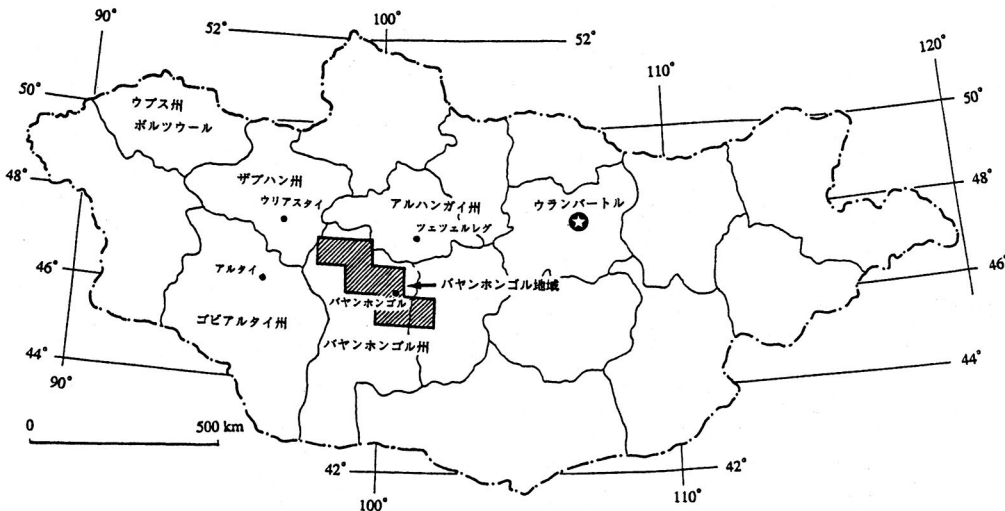


1:200,000 Digital Geological Map of Mongolia  
L-47-XXIV

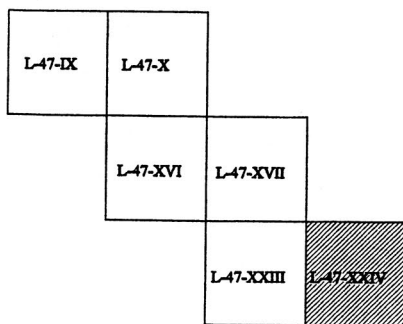
20万分の1モンゴル数値地質図  
L-47-XXIV



日本の5万分の1地質図に相当するモンゴルの基本的地質図は20万分の1地質図である。この縮尺の地質図も含め、モンゴルの地質図のごく一部が旧ソ連によって印刷されたことがあるだけでモンゴル国内では過去に地質図が印刷・出版されたことがない。地質調査によって作成された地質図は、手書きの原図が1部存在するだけである。従って、ここに登録された地質図は、数値化された地質図として最初のものであると同時に、カラープリントとして多数の部数が発行されたものとしてもモンゴル最初のものである。

この地質図は、国際協力事業団（JICA）のプロジェクト方式技術協力「モンゴル地質鉱物資源研究所プロジェクト」（1994～1999）の中で、日本の地質調査所とモンゴル地質調査所及びそれに係わる多数の関係者の現地調査、資料収集の努力によって作られたものである。このプロジェクトでは、フィールド調査に係わる技術協力は、モンゴル中部のバヤンホンゴル地域において地質調査と鉱物資源探査を実施する中で行われた。その成果のひとつとしてとりまとめられたのが20万分の1数値化地質図6シートと6シートを総括した50万分の1数値化地質図である。ここに登録されたものはそのうちの1シート（L-47-XXIV）である。

L-47-XXIV



地質図L-47-XXIVの中央部には、ブルドゴル帯の原生代リフェアの堆積岩類とバヤンホンゴル帯のオフィオライトが北西～南東に帯状に分布している。これらの帯には、他にジュラ紀と白亜紀の堆積岩類や古生代花崗岩類が認められる。さらに、上記の2帯の南側には、古第三紀堆積岩類と沖・洪積層が分布する。前者の古第三紀層の分布は北側の構造帯の中に、低地に沿って続いている。ブルドゴル・バヤンホンゴル帯の北側には、リフェアの堆積岩類がバヤンホンゴル帯の北縁に沿って分布しているが、その北側は広く古生代二疊紀のハンガイ花崗岩類によって占められる。なお、地質の詳細については、50万分の1モンゴル数値地質図（バヤンホンゴル地域）を参照。